議会だより
150号
記念特集

議員として 養老町への思い

西脇　康

わが町養老町は、雄大な養老山脈を見渡す自然あふれる緑豊かな町、そして歴史深い町です。

議員になり一年が経ちました。

農業に携わっているので、この豊かで広大な田畑を守りながら、町民皆様一人一人が誇れる町、また、次代を担う子供たちに夢や希望を持てる町を目指して、町民の皆様と共に作って行きたいと思います。

清水由美子

時の天皇が二度も行幸され、元号を改元された歴史の町。水・空気が美味しく自然豊かな町。この事に気づかせていただいてから、養老町に対する思いが変わり、我が町を心から愛する様になった。昨年4月「住んでよし、来てよしの町・養老」と思いを掲げ、町政に関わらせていただける事になり、新しい人生が始まった。町民の皆様の声をお聞きし、一人でも多くの方が、「養老町に住んで良かった。子育てして良かった。そして、訪れて良かった。」と思える様、幸福で豊か、発展する養老町となる様、心に描き、知恵を絞り行動していきたいと思う。

小寺　光信

養老改元1300年プロジェクト事業の公募委員を5年間勤めて、改めて養老町の存在の大きさに気が付いた。養老改元717年から1300年後のイベントで、その間養老は脈々と生き続けてきた。時代の変遷により多くの苦難を乗り越えて、現在の私達の日々の暮しが存在する。現在に目を向けて見ると、人口減少に歯止めが掛からず少子高齢化が進む中で、追い打ちを掛ける様に新型コロナ禍である。しかし、長い歴史の中では幾度と無く大きな困難を乗り越えてきた。今一度先人の知恵に尊敬と感謝の心を持って養老町の一議員として未来に続く努力を続けたい。

北倉　義博

今回のコロナ禍を目の当たりにし、改めて人の命・体が最優先であると認識できました。その事を踏まえ、今後の養老町財政を思うと、医療や介護の分野での歳出が増大する事は避けられません。当然ながらそれ以外の分野で調整が求められます。私は議会が先頭に立って身を切る改革を打ち出すべきと考え「議員定数削減」を提案しています。その予算を「少子化対策・雇用対策」に活用し、次の時代を担う若者が安心して生活でき、いかなる危機にも対応できる準備として財政調整基金を拡充し、早急に消滅可能性都市からの脱却を目指すべきと考えます。

岩永　義仁

私の学生時代「持続可能なまちづくり」が議論され、多くの論文が発表されました。現在でも国連においてSDGs（持続可能な開発目標）としてまったく同じ事が提唱されています。まちづくりの本質は国でも県でも町においても、いつの時代も同じです。そこに住む人が「ずっと幸せに生活できる」環境づくりをすることです。

日本が迎えている人口減少社会とは昨日より今日、今日より明日が寂しくなっていく社会です。こういった社会情勢でも、住民一人一人に目を向けることで幸せな生活を守ることが可能です。一緒に養老の未来をつくりましょう。

長澤　龍夫

私が一番憂慮していることは町人口の若年層が占める割合がますます減少傾向にあることです。高齢者福祉はもちろん重要ですが、将来を担っていく若者や子ども達が生き生きと生活できること、結婚しても職場や子育てなど生活の場を町外に求めることなく、企業誘致を積極的に推し進め意欲と満足感を持って働ける職場を増やしていくことで安心して子育てができる環境づくりをする。教育や福祉の充実に取り組んでいきたい。また町民憲章に《お年寄り》だけでなく《こどもが》を新たに加えていくことで町民全体の意識を高めていきたい。

大橋　三男

今後の町の動向は、少子高齢化に向けて空き家や環境管理対策、また税や公共料金の減収に伴う対策等山積している。それに加え作今の異常気象にも危惧しているが、消防団の編成も縮小せざるを得ず先行きの暗い現状である。

行政に於いても町離れを防ぐ対策や企業誘致等試行錯誤されているが、農地法や軟弱地盤等が妨げとなっている現状で有る。

今後は次世代を担う若者を中心とした思考を導入する為、行政や議会でも若い世代が担う事が少なくとも、より良い町の糸口になるのではとの思いです。

吉田　太郎

近年、全国的に人口減少、少子高齢化など数々の問題があり、養老町としても対策を考慮しているが、思うように進んでいない。また、養老ICとスマートIC開通に伴う企業誘致、雇用問題も思うように進んでいないのが現状である。そのため、経済対策も重要な課題の一つであると考えている。このような色々な問題や対策を行政と共助しながら、公助を願い、住民が安心・安全で住みやすい町になるように積極的に推進していきたいと考えている。

早崎百合子

いにしえに輝いた養老の地の物語、今を生きるための養老の地の課題、未来に躍動する養老の地の輝きが。議員はこの地が育んできた歴史に根差した地域風土を大切にしながら未来に繋がる「希望の糸」を紡ぐ役割を担っている。

養老改元1300年祭、養老I-C、養老スマートI-Cと養老町が未来に飛躍するための画期的な出来事が続いている。

コロナ禍に伴い町財政は厳しい状況になることが予測される今、議会も町執行部と連携する中で私は、女性の視点で皆様の声を町政に反映することをモットーとし議員活動を続けていきたいと思う。

野村　永一

偏見と差別は絶対あってはいけない。自分は幸せだけれども、誰かが幸せではないということ。老若男女、誰でもが幸せな町でありますように。差し入れや、おすそわけしてあげたくなったり、声を掛けたくなったり、干渉するのではなく、おたがいさまのちょうどいい関係のある町。今ある物や思いを、できることから育てていくこと。思い描いても、考えても、悩んでいても、まず行動するその結果は『成功』か『大成功』しかない。【誇りと愛着が持てる絆を大切にする養老】の原点は、そこにあるのでは。

田中　敏弘

議員は、ただ単に住民の声を代弁するだけでなく、一歩踏み出して常に住民の中に飛び込み対話を重ね、住民の悩み、声を汲み取りながら議論をして、調査研究を進め、住民全体の福祉向上と地域社会の活力ある発展を目指して努力することが重要であると、常日頃思っています。

養老町は自然豊かな住みやすい町です。この自然を大切にして養老らしさを求め、一流の田舎町を求めます。また、開かれた議会、行動する議会を目指し頑張ります。

松永　民夫

議員の職務の基本は、住民の方々と対話を重ね意見や要望を聞いて政策に反映させることです。議会には調査権や監査権があり、委員会等で調査研究や審議をし、住民全体の福祉の向上と地域社会の発展を目指す義務があります。私は、『福祉』をテーマとして議員活動をし、障害者の作業所やグループホームの設立に努力してきました。今後も障害者福祉と共に高齢化が進む中での高齢者福祉にも積極的に取り組み、地域の中での福祉の向上に精進してゆく所存です。コロナ禍ではありますがより多くの皆様のご意見を反映できるよう活動していきます。

水谷久美子

どんなに季節が巡っても、町の営みは、その時代に生きている町民により築かれていくものだと思う。だから、今を生きる養老町の歴史上の人物は、町民一人一人であり、町民が主人公である。

「新型コロナウイルス感染症」「自然災害」などなど、大変な時こそ、これまでも、これからも、コミュニティーの連帯がなにより大切だと思う。

12月4日定例会開会予定
ぜひ傍聴にお越しください。

（詳しい日程は「広報ようろう」12月号と町ホームページでお知らせします。また、新型コロナウイルス感染症対策の徹底をお願いします。一般質問の日は車いすの方も傍聴していただけます。ご不明な点は、議会事務局までお問い合わせ下さい。）